

A-00 発表会予稿の書き方に関する研究

A Study of How to Prepare the Manuscript

00000000 首都 太郎 指導教官 首都 花子 教授

1. はじめに

この文章は、icspresen.sty の使用法を説明しています。以下の説明を読み、フォーマットに関しては間違いのない予稿を作成してください。

2. 設定が必要なマクロ

本文の前に以下のマクロの記述をする必要があります。

```
\No{A-00}
\Jtitle{ 発表会予稿の書き方に関する研究 }
\Etitle{A Study of How to Prepare the Manuscript}
\Author{00000000_首都_太郎_指導教官_首都_花子_教授}
\presenyear{23}
\presendate{ 平成 24 年 2 月 8 日 }
\master % 修士論文発表会の場合
\bachelor % 特別研究発表会の場合
```

\No は発表番号を設定します。 \Jtitle および \Etitle は日本語と英語の論文名をそれぞれ設定します。本文を英語で書く場合でも両方を設定してください。

\Author は氏名および指導教官を設定します。学習番号、氏名、指導教官の順で記述します。また ‘ ’ はスペースを表しますので、必要な数を挿入し調整します。

\presenyear は卒業・修了の年度を数字で設定します。また、\presendate は発表会の日程を設定します。発表年度と日付の年と間違えない様に注意すること。

最後の \master および \bachelor は、どちらか一方のみを残します。修士論文発表会の場合は \master を、特別研究発表会の場合は、\bachelor を残します。間違えるとフッターの情報が間違ったものになってしまうので、注意すること。

3. 本文について

ここでは、本文の記述について説明しています。本文は 2 ページまで記述することができます（修士論文発表会予稿の場合は 4 ページも可）。また、上下左右のマージンに関しては、このスタイルファイルのものから変更しないで下さい。

3.1 文字サイズなど

本文の文字サイズなどは特に指定はありません。長さや読みやすさなどを考慮し、適宜調整してください。

3.2 セクションなど

節などは、L^AT_EX のコマンドの \section や \subsection を通常の論文と同様に用いて下さい。

3.3 図表など

図や表に関しても特にフォーマットは定めていません。

3.4 参考文献

参考文献も通常の L^AT_EX のコマンドを使用してください。これは、使用例です⁽¹⁾。

4. おわりに

不明な点は問い合わせを行って下さい。

参考文献

[1] 首都太郎, “特別研究” 首都大学東京システムデザイン学部, VOL.1, NO.1, pp.1-2, 2008 年 12 月。